

## 相愛大学研究シーズ集

シーズ名	障害等への偏見変容に向けたインクルーシブ保育と保育者養成教育のあり方に関する研究
所属	人間発達学部 子ども教育学科
氏名	直島 正樹
<p>【概要】</p> <p>近年、日本の保育現場では、国連の障害者権利条約批准(2014年)等を背景に、インクルージョンが障害児保育等における重要な理念として注目され、その考え方に基づくインクルーシブ保育のあり方が模索されている。</p> <p>しかし、実際の保育現場では、インクルーシブ保育が実質的に行われているとは言い難いのが現状である。さらに障害児をはじめ、特別なニーズを抱えた子どもが保育所等を利用するケースでも、偏見・差別の課題がある点は否めない。保育現場に限らず、社会全体でも障害等への偏見が根強く残っており、それが障害児と家族の生きづらさを一層助長する等、インクルージョン理念の浸透に向けて課題があると考えます。</p> <p>私は、これまでの障害者施設等現場での業務、保育者養成課程での教育活動、さらには研究活動を通じて、日本での共生社会の実現には、人間の人格形成に重要な時期である幼児期からインクルージョン理念を育むこと、そのための保育現場等における取り組み(インクルーシブ保育実践)が重要な意味を持つと考えている。また、障害児と家族の生きづらさの解消に向けた、効果的なインクルーシブ保育実践等を担う保育者には高い専門性が求められ、その向上には保育者養成の教育カリキュラム等の充実が必要と考える。</p> <p>このような社会の現状や、私自身の問題意識から、①障害児と家族の生きづらさ解消と、②インクルーシブ保育に関わる保育者養成教育の大きく二つの観点に着目し、この観点から、今後の日本における共生社会の構築に向けて、保育現場における効果的なインクルーシブ保育実践と、それに関わる保育者養成教育の現状・課題を整理しつつ、今後のあり方について検討している。</p>	
キーワード	インクルーシブ保育、障害児保育、共生社会、障害児と家族の生きづらさ解消、保育者養成教育